



2020年7月発行

茨城大学 広報室

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

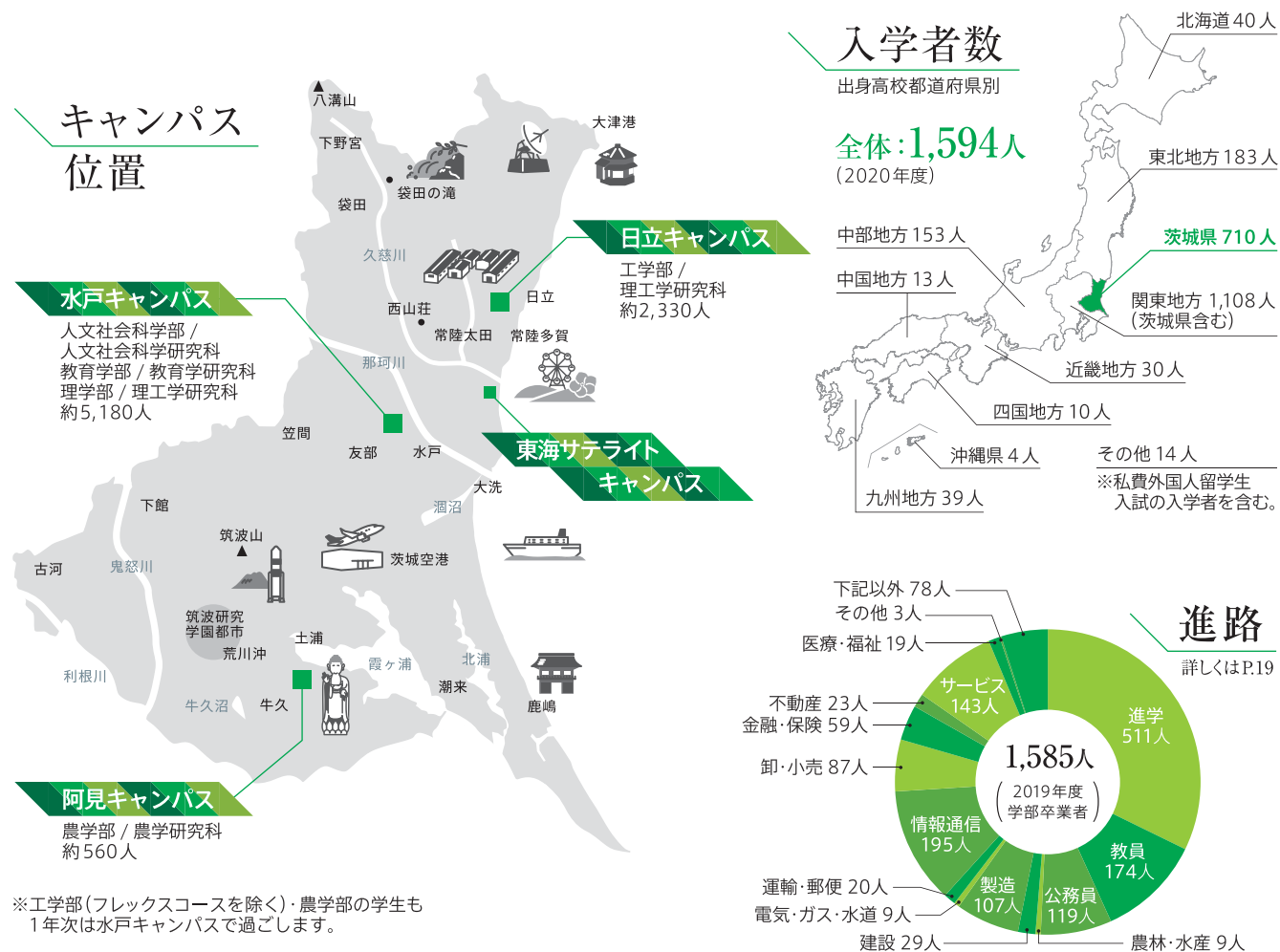
TEL 029-228-8111 (代表)

WEB <https://www.ibaraki.ac.jp/>



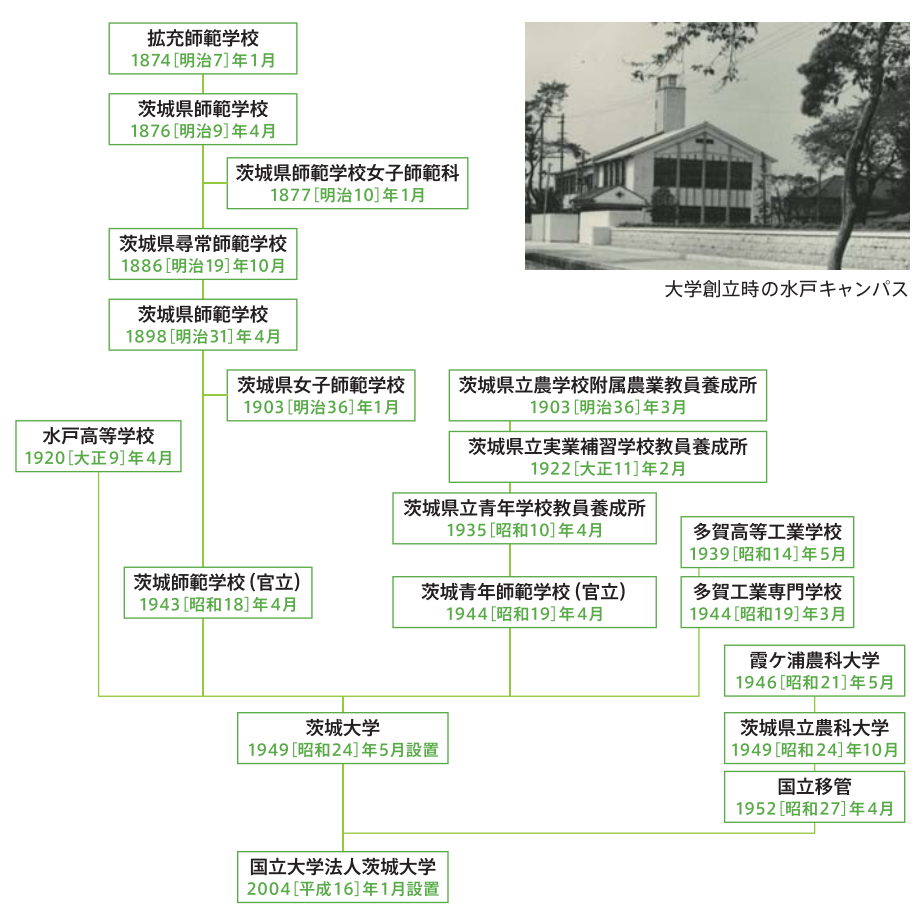
学生・教職員・地域に元気をもたらす ダイバーシティを活かした大学づくりをめざす

茨城大学は、5学部・大学院4研究科を有する総合大学です。地域社会に根ざした教育・研究に取り組み、その中で量子線科学や気候変動適応研究などの世界的な強みとなる分野を育ててきました。今後も地域の知の拠点として、持続可能な社会づくりに貢献していきます。



茨城大学の沿革

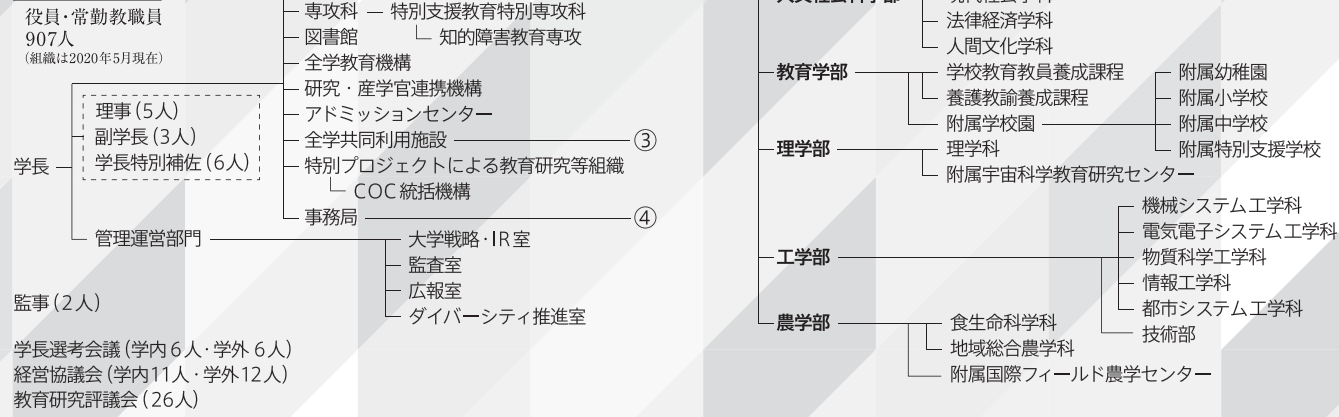
茨城大学は、1949年、旧制水戸高等学校、茨城師範学校、茨城青年師範学校、多賀工業専門学校を統合した新制大学として産声をあげました。1952年には茨城県立農科大学が合流して農学部となり、現在の骨格ができました。さらに源流を辿れば、約150年前の拡充師範学校がルーツとなります。



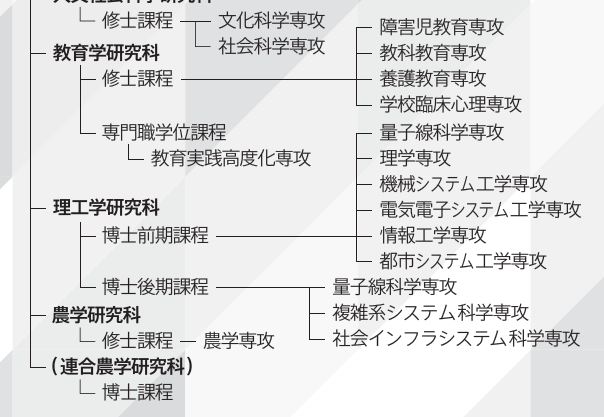
目次

概要・目次	1
特集1 SDGsで未来をつなぐ 茨城大学の挑戦	3
特集2 茨城大学 コミットメントがみえる	7
教育	9
学部・大学院・専攻科	11
研究	13
地域連携	15
グローバル交流	17
就職状況	19
大学運営	20
キャンパスマップ 水戸	21
キャンパスマップ 日立	23
キャンパスマップ 阿見	25
その他の関連施設	27
キャンパススケジュール	29
茨城大学基金	30

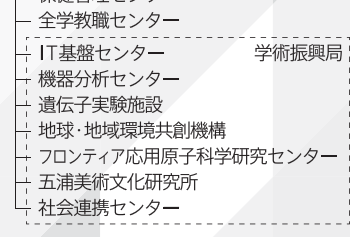
組織図



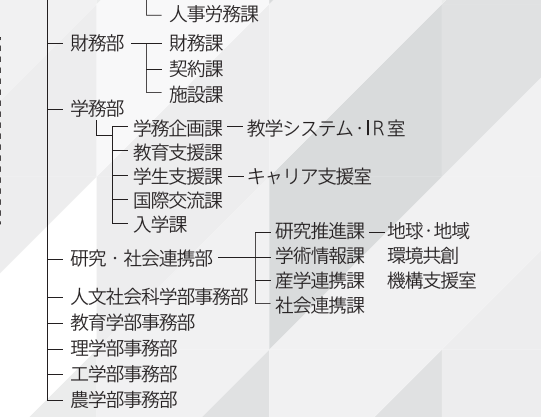
② 大学院



③ 全学共同利用施設



④ 事務局



SDGsで未来をつなぐ 茨城大学の挑戦

コロナ禍で変容する世界を見据えた 大学の在り方と改革

2020年4月に就任した太田寛行新学長は、国連が掲げる「SDGs」(持続可能な開発目標)を大学改革の旗印とすることを宣言。その実践を加速させるため、新たにSDGs推進担当の学長特別補佐を設置し、そのポストを人文社会科学部の蓮井誠一郎教授が務めることになりました。太田学長と蓮井教授が、コロナ禍も踏まえたその背景や狙いについて語ります。

各分野の学問が連携して 社会課題に立ち向かう

——太田学長は就任にあたって、「SDGs」の全学的な推進を掲げました。その背景を教えてください。

●太田学長：これは茨城大学の必然だと思っています。本学は2006年に地球変動適応科学研究機関(ICAS)を設立して、研究では気候変動適応のサイエンスを、教育ではサステナビリティ学という新しい分野をスタートさせました。この研究と教育の内容は、今、世界が取り組んでいるSDGsを構成するものです。さらに、このICASの特色は学部を越えて教員が参画することでした。各分野の学問が連携して、社会課題に立ち向かうという、SDGsの趣旨に重なる取り組みを本学は14年前に整備していたといえます。もう一つ、1956年に設立のルーツをもつ「広域水圏環境科学教育研究センター」とICASを今年度から統合し、「地球・地域環境共創機構(Global and Local Environment Co-creation Institute: GLEC)」を設立しました。その設立の趣旨には、「フィールド科学から予測・政策科学を含む総合的な研究を推進するとともに、環境問題の解決をめざして持続的な環境の共創に関する教育研究や社会連携の機能の強化を図る」と掲げられています。地域に根ざしたユニークな環境共創に関わる教育研究

拠点として、問題解決と社会連携をめざすという展開は、SDGsの達成に向けて一歩踏み出したものといえます。

——その推進担当の学長特別補佐を務めるのが蓮井教授です。現在の世界や日本におけるSDGsの役割とは？

●蓮井教授：SDGsは2つの反省に基づいて作られた開発目標だと考えられています。一つは、目標なく好き放題に進めて、貧富の格差や環境問題を増大してしまったという大きな反省から学んだもの。もう一つはSDGsの前の開発目標であったMDGs(Millennium Development Goals)の経験からの反省です。今回のSDGsは開発を進めるべき分野とその達成度を分かりやすく示したものです。キーワードは「誰一人取り残さない」。SDGsの策定過程においても、NGOなどの市民社会の組織が参加して決めていったのも特筆すべき点です。そしてMDGsがいわゆる途上国向けの目標であったことに対し、SDGsは先進国にも向けられた目標であるのが、かなり大きな違いとなっています。各国政府だけでなく、民間も全員参加して、「誰一人取り残さない」。すなわち格差を拡大しない。そういったスローガンでそれぞれの開発目標の達成に取り組んでいます。構造化された共通言語によって、政府も企業も大学も市民社会も同じ目標とターゲットがもてる。それがSDGsの大きな役割だと思っています。

SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年9月の国連総会で採択された、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標。持続可能な開発のための17のグローバル目標と169のターゲット(達成基準)の中に、開発途上国・先進国を問わず、人類全体の働きがいや経済成長までを踏まえた開発目標が盛り込まれている。

——今の大学運営において、「SDGs」はどんな意義をもつといえますか？

●太田学長：2009年に制定した茨城大学の「大学憲章」では、本学の教育の役割をこのように謳っています。「①人類の文化と社会や自然についての理解を深め、高い倫理観をもち、持続可能な社会と環境保全の担い手となる市民を育成すること」、「②豊かな人間性と幅広い教養をもち、多様な文化と価値観を尊重する国際感覚を身に付けた人間を育成すること」、「③専門知識と技能を修得し、自らの理想に基づいた将来設計ができる力と課題を探究し問題を解決する力を兼ね備えた人材を育成すること」。SDGsの達成に向けては、この「市民」、「人間」、「人材」の育成に総合的に取り組むことが必要です。それは、専門分野の学力をもった「人材」育成に重きをおいてきた従来の大学教育を改革することにもつながります。市民の育成は「平和への希求」、人間は「個人の価値の向上」、人材は「経済的繁栄」もしくは「富の追求」といえるかもしれませんが。SDGsは「平和への希求」の意識だけでは達成できず、「富の追求」と一緒になってこそ達成されるものです。これは何も新しい考えではありません。本学では、「世界の俯瞰的理解」から「地域活性化志向」まで、5つの要素からなる

ディプロマ・ポリシーがあります(P.9参照)。結局のところ、それらを学生に達成させることに尽きるといえます。

SDGsが可視化するものを 地域との共通言語に

——広い領域に及ぶSDGsですが、その中でも茨城大学は気候変動の分野が大きな強みです。2020年4月、新たに「地球・地域環境共創機構(GLEC)」が誕生し、蓮井教授はその初代機構長も務めます。

●蓮井教授：太田学長がさきほど指摘していたように、この機構は気候変動を中心に広い範囲の環境問題に注目してきた「ICAS」、そして霞ヶ浦に根ざした長年にわたる研究と教育に注力してきた「広域水圏環境科学教育研究センター」、この2つを統合し、視野を広げて強化した組織です。地球および地域の環境の共創をめざす茨城大学のあらゆる部局から研究者が集う横断型の体制となっています。ローカルからグローバルまでの幅広い環境問題や環境危機への対応としてSDGs教育を推進するため、先進的で総合的な教育研究拠点、そしてアジア太平洋地域の国際協力の拠点という2つの主要な機能を強化することをめざしています。

——気候変動に留まらない多様なSDGsの目標を、どのように茨城大学の運営に活かしていくのでしょうか？

●太田学長：SDGsの17の目標の中には、外の社会に対してだけでなく、大学の中で取り組むべきものがあります。例えば、「5. ジェンダー平等を実現しよう」、「8. 働きがいも経済成長も」、「12. つくる責任つかう責任」、「16. 平和と公正をすべての人に」などです。私は特に「ジェンダー平等を実現しよう」に注力し、ダイバーシティを活かす大学にしたいと思っています。大学は学部間や教職員間、世代間、留学生など、国際性も含めて多様な人々がつながった複雑な組織体です。また、本学は学生支援の取り組みの中で、





担任制をワークさせ、多様な背景をもつ学生へのケアを強化してきた歴史があります。そのように、まずできることから始めることが大事だと思っています。

●**蓮井教授**：SDGsというのは広い範囲をカバーした、ある種の社会構想だと思います。そういう中で、かえって全体像を捉えにくい部分もあり、お互いのつながりも見えなくなりがち。ですので、茨城大学におけるSDGsにつながる活動を可視化するのが非常に重要です。SDGsマップ、ある種の見取り図を示して、考える基盤をつくるということがまず大事だと思っています。もう一つは、SDGsを大学教育の中に取り込んでいくこと。SDGsとは何かを学ぶだけではなく、何のための大学での学修なのか？ということの意味づけとして、SDGsが重要になってくる。大学は学生を市民として育てるための学びを体系化させ、教育プログラムとして再編成していく必要があります。すなわち、SDGsを大学と社会がつながるための共通言語にする。そのように位置づけ、本学の強みである企業や市民社会など地域と大学の共創、コ・クリエーションとして、SDGsの達成を推進していきたいです。

ポスト・コロナを見据え 自分からどう変わって、 世界を変えていくか

——**新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)により、大学も全面的に遠隔授業を実施するなど、前例のない対応を迫られました。社会の変革が加速する中、それらに伴うSDGsや大学の役割をどのように捉えていますか？**

●**蓮井教授**：まず、途上国の新型コロナウイルス感染症に関する現状が非常に見えにくく、正確には把握できませんが、既にあった気候変動や貧富の格差、政治経済の脆弱性、そういった問題に追い打ちをかけたことは間違いないでしょう。一方、新しい日常にシフトしつつある中で、

事業の継続が難しくなった業界や分野があると思いますが、意外になんとかあった部分もあったと思います。将来の技術開発を待たなくても、今の技術で十分世界は変えられる、SDGsがめざす世界の変革は可能なのだ、と感じる部分はあったと評価をしています。その中で、現状にただ適応しようとするだけでなく、積極的に変えていこうと考えていく茨城大学の学生が増えてほしいなと思っています。もちろん道のりは楽ではありません。ある研究によるとコロナ禍を通じてCO₂の排出量は17%減ったというデータがありますが、それは実は2006年の水準に戻っただけ。いかに削減に向けたハードルが高いかを実感する数字です。しかし、あえてそこに挑戦する面白さ、やりがいは、特に科学者であれば強く感じることはできたのではないのでしょうか？茨城大学で研究する若い世代もそうあってほしいと強く願います。SDGsのターゲットは2030年。あと10年です。私たちはポスト・コロナ、ポストSDGsという時代を見据え、自分からどう変わって、世界を変えていくか、これを考えていかなければならない。GLECの活動、あるいは教育では、そういったことを一つの柱にできればと思います。



●**太田学長**：新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年の前期はオンラインでしかつながることができない状況でしたが、学部によってはSNSで学生の相談に乗ったりだとか、独自の取り組みを実践していました。ここでも「誰一人取り残さない」というSDGsの精神が大事になっています。そして日本においては、法の支配と自己統治という中で、気候変動を中心とした持続可能性を確保しながらどう行動変容を図るか、ということが重要になります。その喫緊の課題に応えていくことが、SDGs達成に直接つながっていくという視点で、大学の役割をさらにアップデートさせることになるでしょう。

正のスパイラルを生み出す ダイバーシティを活かした 大学の実現へ

——**改めて、これからの大学運営へ向けた意気込みを。**

●**太田学長**：学長就任の所信表明では、「学生が“活気”にあふれ、教職員が“やる気”に満ち、地域が“元気”になる、ダイバーシティを活かした大学の実現をめざして」を掲げました。一つ目の「学生」に関しては、三村信男前学長が掲げた「学生が成長する学生中心の大学」をさらに確固としたものにするために、教員による“Teaching”だけでなく、学生が課題達成のため自ら学ぶ“Learning”に重点をおいた教育システムへの転換をめざします。それによって、教育の時間対効果を向上させ、学生が自らの学修の質を高めていくことに責任を負う「学生参画による教育の質保証」が確立されるはず。二つ目は、「SDGs」を全学的に掲げて、さまざまな分野融合研究や共同研究をさらに推進できる環境を整備することです。これによって、「社会課題の解決に取り組む大学」として広く社会から認知され、「研究成果を社会へ還元し、社会からの賛同と財政支援を得て、さらに研究を進める」という正のスパイラルとなる“社会と大学の関係”の実現をめざします。三つ目は、これまで取り組んできた地域志向教育や地域連携の事業を継承発展させるとともに、学生の主体的な学びを促す学外学修プログラムとして進めてきた“iOP (internship Off-campus Program)”をさらに拡充させて、地域の人たちが大学教育に参画、協力する機会を増やします。また、

知の拠点の発信活動として、教員が地域の企業や自治体の人たちを受け入れるリカレント教育も拡充させます。地域企業との共同研究や地域連携の事業は、これまでに組織化してきたパートナー企業交流会の参加企業や自治体との関係を強化して、さらに展開させていきたいと思っています。最後のダイバーシティは、先に述べたとおりですが、その推進にあたっては、活発な学内コミュニケーションが重要です。附属学校園等を含めたキャンパス間の交流や、職場を超えて行う意見交換会等の学内コミュニケーションをさらに充実させたいと思っています。



●**太田寛行 (おおた・ひろゆき)**

写真左。茨城大学学長。専門分野は土壌肥科学、微生物生態学。1997年に茨城大学に着任。農学部長、副学長を経て2020年4月に学長に就任。

●**蓮井誠一郎 (はすい・せいいちろう)**

写真右。人文社会科学部教授。国際政治学、平和学が専門。2020年4月から、地球・地域環境共創機構長、学長特別補佐(SDGs推進担当)を務める。

Where They Talked



水戸駅南サテライト

水戸駅南口から徒歩5分。川の景色を臨みながら、学修や仕事、イベントなどに柔軟に活用できる場として2020年に開設しました。本学工学部都市システム工学科の研究室の教員・学生がデザインを監修。茨城県産木材をふんだんに使った心地よい空間です。

●住所／茨城県水戸市桜川2丁目2-35 茨城県産業会館2階
●TEL／029-297-3151

IBARAKI University Commitment Data Information

茨城大学では学生が卒業までに身につけるべき5つの茨城大学型基盤学力を定め、それらがどの程度身についたかを毎年度、卒業時、卒業3年後に調査をし、教育改善に役立てています(詳しくはP.09~10をご覧ください)。

4年間で身についた「チカラ」

茨大に入学してよかった

73.4%

2018年度卒業生
卒業時に学修面、学生生活面で満足してくれた学生



授業以外でも自主的に学習する

週あたり **14.1時間**

2018年度卒業生
授業以外に自主的学習を実施



図書館を利用して学ぶ

9.5万冊

2018年度実績
学生に対する図書貸出し冊数



留学する学生を経済的に支援

183名

2018年度実績
海外留学する学生に渡航費を支援



指導教員や担任の支援が充実

70.3%

2018年度調査2~4年生
担任制度の満足度調査において肯定的な回答の割合



地域課題解決をテーマにした授業を受講

36.9%

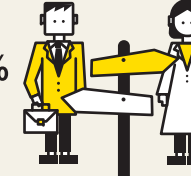
2018年度実績
実践的なPBL(Project/Problem Based Learning)科目を受講した学生数



卒業して就職・進学する

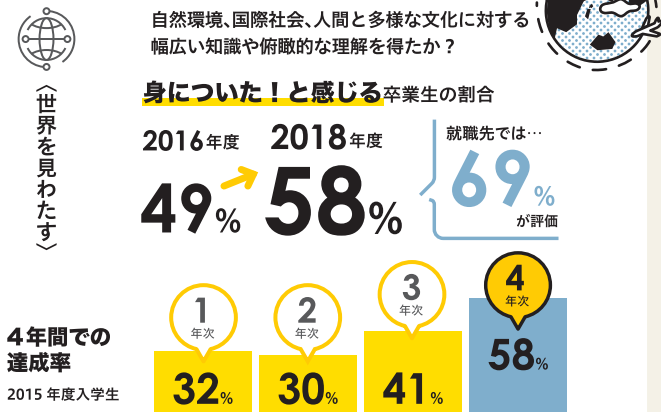
94.4%

2018年度実績
卒業して就職または進学した学生の比率

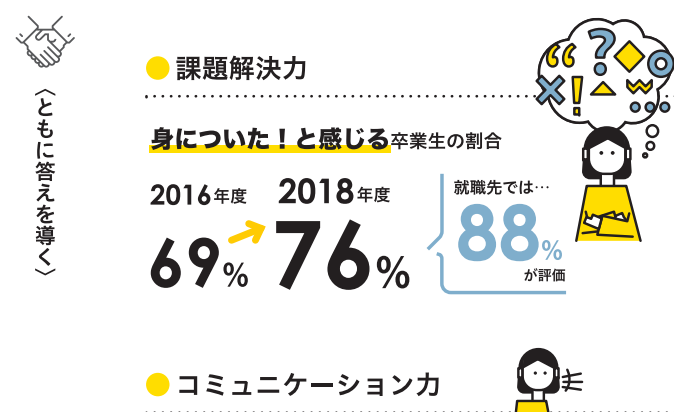


<https://www.ibaraki.ac.jp/commit/mieru/>

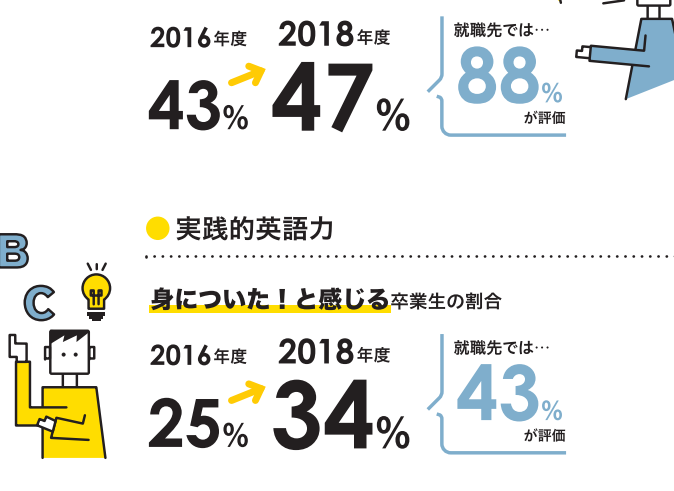
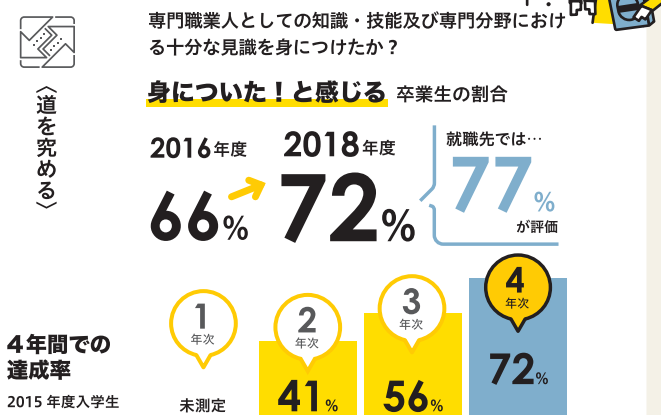
DP1 | 世界の俯瞰的理解



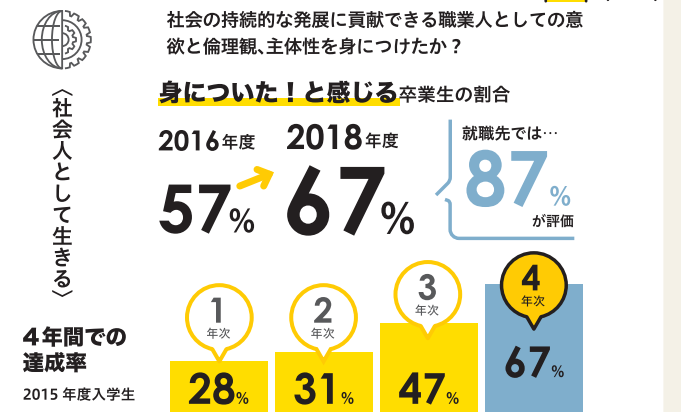
DP3 | 課題解決能力・コミュニケーション力



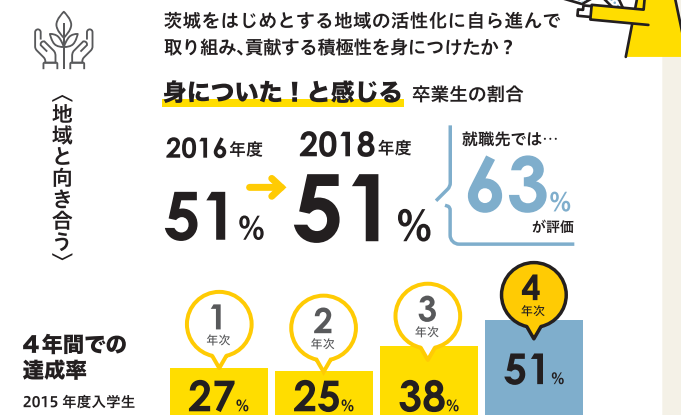
DP2 | 専門分野の学力



DP4 | 社会人としての姿勢

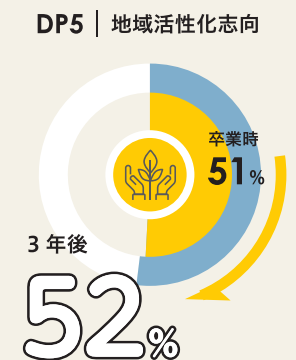
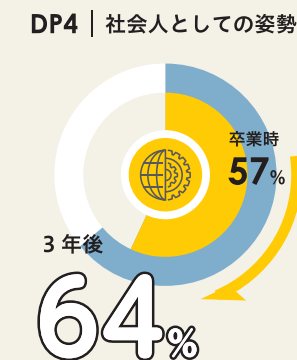
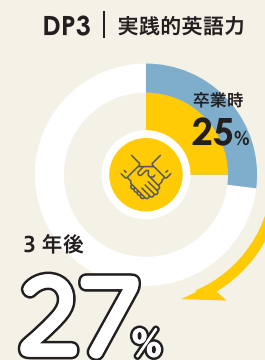
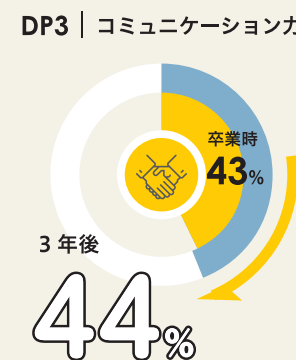
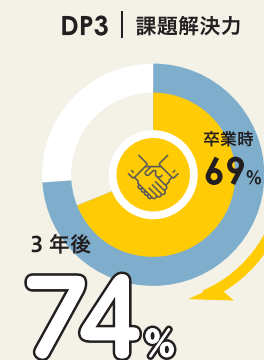
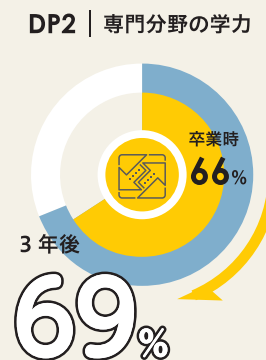
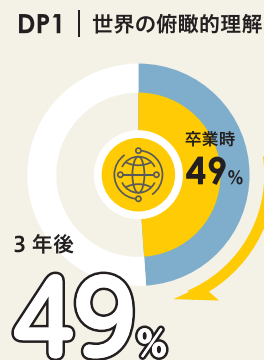


DP5 | 地域活性化志向



卒業時の達成度・ 社会に出てからの活用度 卒業生へのアンケート(3年後)

卒業時に身につけた「知識・能力」は、3年後に使える「知識・能力」になっているか？
在学中に身につける5つの知識および能力(茨城大学型基盤学力)の状況を卒業3年後に追跡調査し、改善に活かしています。








茨城大学の教育

主体的な学びを促すカリキュラムとデータを学修指導に活かして、
これからの社会に必要な茨城大学型基盤学力の習得を保証

茨城大学型基盤学力

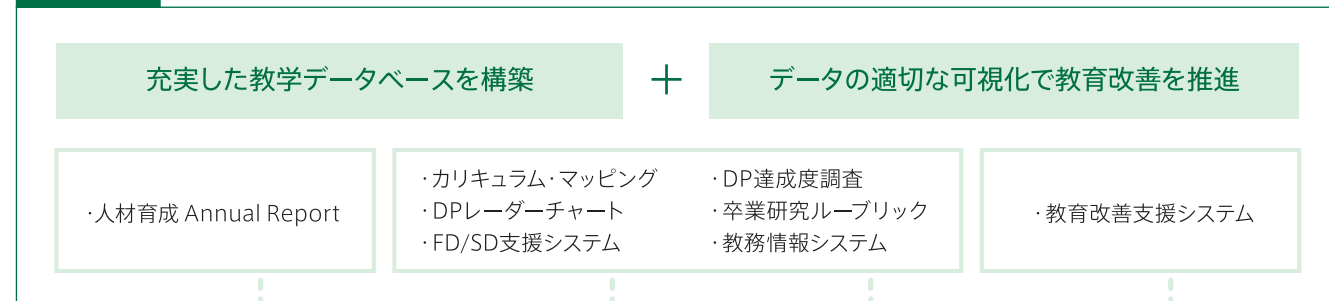
Diploma Policy

-  世界の俯瞰的理解
-  専門分野の学力
-  課題解決能力・コミュニケーション力
-  社会人としての姿勢
-  地域活性化志向

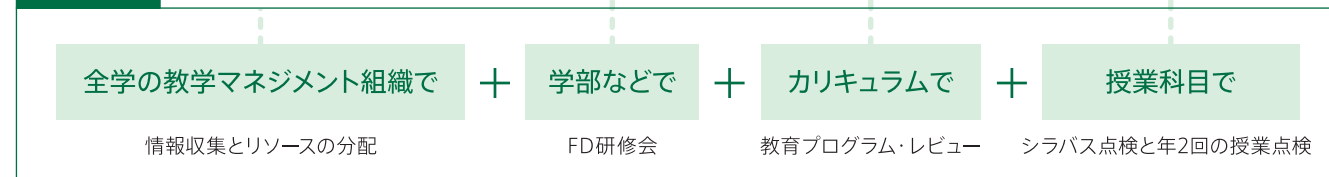
茨城大学では「変化の激しい21世紀において社会の変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことができる総合的人間力を育成すること」を教育目標に掲げ、すべての学生が卒業までに身につけるべき5つの「茨城大学型基盤学力」をディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）として定めています。各カリキュラムは、これらの基盤学力を確実に習得できるよう設計されています。さらに、入学時～卒業時の学生調査、卒業後の追跡調査、企業へのアンケート等によって、在学生および卒業生のディプロマ・ポリシーの達成度を把握して、授業やカリキュラムの改善に役立てています。また、学生生活の状況も継続的にアンケート調査し、充実した大学生活がおくれるように支援しています。

茨城大学の教育と質保証

STEP1 学修成果の可視化と共有



STEP2 4階層質保証システム



STEP3 地域協働モデル

授業外の学びや活動を地域とともに支援

必修科目を原則開講しない期間を設け、学生の主体的な学外学修を促進するiOP (internship Off-campus Program)を制度化しています。海外、地域などさまざまなフィールドで自らの学びを発展させることにより、5つの茨城大学型基盤学力のブラッシュアップを図っています。



海外研修

インターンシップ

サービスマーケティング

発展学修



pick up

全学共通の特徴的な基盤科目

大学入門ゼミ

主体的な学びや資料検索の方法、レポート作成のポイントなど、高校までとは異なる大学での学修スタイルを学ぶ1年次の必修科目です。

茨城学

茨城が抱える課題について、自治体や地元企業など多様な講師による講義とディスカッションを通して、地域への理解を深めます。

プラクティカル・イングリッシュ

アクティブ・ラーニング形式で実践的な英語力を身につけます。1年次と3年次にはTOEIC受検で習得度を測ります。

ライフデザイン

大学時代に身につけておくべき多様な価値観、社会の常識、マナーなどを学び、自らのキャリアに思いを巡らせます。

授業外の学びや活動も積極的に支援

茨城大学では、サークルやボランティアなど授業外での活動も、茨城大学型基盤学力をさらに高めるものとして積極的に支援をしています。また経済的な困難や障害といった学生が抱える課題に応え、誰もが前向きに学べるための環境整備を進めています。



課外活動

サークルなどの課外活動をサポートする施設を各キャンパスに設けています。多くの学生が大会などで活躍中です。

経済的な支援

経済的な困難を抱える学生たちも安心した環境で学修に取り組めるよう、学費の免除や各種奨学金のほか、さまざまな支援制度を用意しています。それらの支援には、茨城大学基金に寄せられた寄附金も活用しています。

入学金・授業料減免

国による高等教育の修学支援新制度および本学独自の制度によって、入学金や授業料を減免する支援を行っています。

成績優秀学生学費免除

学業成績が優れた学部生および大学院修士課程（博士前期課程）学生を表彰し、授業料の一部を免除しています。

キャリア支援

カウンセラーによる相談対応やセミナー等の開催を通じて学生のキャリア形成をサポートします。

グローバル教育

海外協定校等とのネットワークを通じて、学生の留学を支援します。また、留学生の学修をサポートします。

心身の健康サポート

保健管理センターでは医師や看護師、カウンセラーが心やからだの相談に対応します。

障害のある学生の支援

学生同士による支援（ピアサポート）などを通じて、ひとりひとりのニーズに応じた支援体制を整備しています。

check!



コミットメントセレモニー

茨城大学コミットメント 入学式の日にあわす教育の約束

茨城大学では、ディプロマ・ポリシーで定めた5つの基盤学力と教育の仕組みを理解してもらいイベントとして、入学式の日「コミットメントセレモニー」を行っています。「茨城大学コミットメント」は、学生・教職員・地域のパートナーシップによって必要な力を身につけるための教育の約束です。新入生には「コミットメントブック」が配られ、式場の全員で記念撮影をして、新しいキャンパスライフを迎えることとなります。

●WEB / <http://www.ibaraki.ac.jp/commit/> ●twitter / @IBADAI_commit

学部

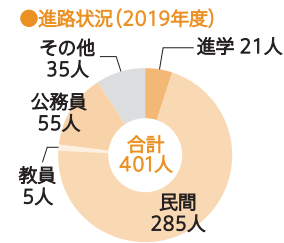
全学のディプロマ・ポリシーに応じて各学部とも目標を掲げ、コースやカリキュラムを充実させています



人文社会科学部 水戸キャンパス

主専攻分野の「メジャー」に加えて異分野の「サブメジャー」(副専攻)も選ぶ制度により、社会の課題を把握し、解決する高い能力と俯瞰的な視野を育てます。

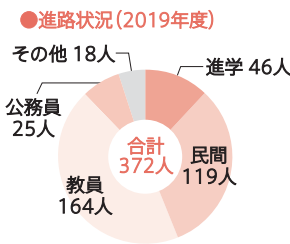
- [現代社会学科] [法律経済学科]
- メディア文化メジャー/国際・地域共創メジャー 法学メジャー/経済学・経営学メジャー
- [人間文化学科]
- 文芸・思想メジャー/歴史・考古学メジャー/心理・人間科学メジャー



教育学部 水戸キャンパス

複雑化する教育問題に対処するため、専門的知識と広い視野を伴う実践的指導力をもった教員を育成。地域と連携し、教育実習以外にも学校現場で学ぶ機会を充実させています。

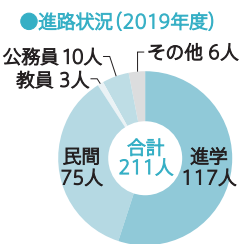
- [学校教育教員養成課程]
- 教育実践科学コース/教科教育コース/特別支援教育コース
- [養護教諭養成課程]



理学部 水戸キャンパス

従来の学科の枠組みを取り払った「1学科6コース制」により、社会のさまざまな分野で活躍できる、高い専門知識と問題解決能力をもった理学のスペシャリストを輩出しています。

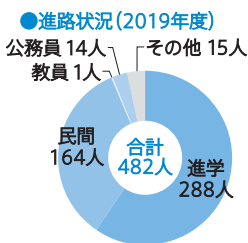
- [理学科]
- 数学・情報数理コース/物理学コース/化学コース/生物科学コース/地球環境科学コース/学際理学コース



工学部 日立キャンパス (1年次(フレックスコースを除く)は水戸キャンパス)

AIやビッグデータなどの情報教育を重視し、大学院を含めた6年一貫の教育を念頭に、新たな社会の基盤づくりを担う高度技術者・研究者を育てます。

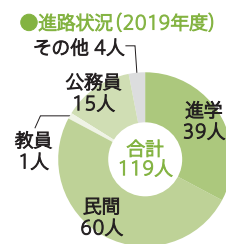
- [機械システム工学科] [電気電子システム工学科]
- [物質科学工学科] [情報工学科] [都市システム工学科]
- [機械システム工学科(フレックスコース)]



農学部 阿見キャンパス (1年次は水戸キャンパス)

食・農業の国際化・高度化が急速に進む中、世界と地域で活躍できる実務型農学系人材の育成をめざし、生産・加工の国際認証などにも対応した新たな農学教育に取り組んでいます。

- [食生命科学科]
- 国際食産業科学コース/バイオサイエンスコース
- [地域総合農学科]
- 農業科学コース/地域共生コース



大学院・専攻科

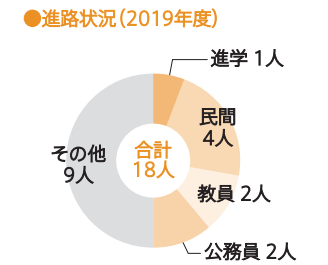
社会をリードする高度な専門職業人や研究者を育てます



人文社会科学研究科 水戸キャンパス

- 修士課程 [文化科学専攻] [社会科学専攻] ※2021年度改組予定

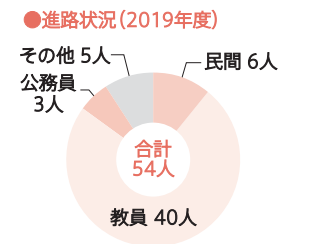
2017年度から社会人向けコースも開設し、茨城県内自治体の職員や議員が地域づくりを実践的に学修・研究しています。



教育学研究科 水戸キャンパス

- 修士課程 [障害児教育専攻] [教科教育専攻] [養護教育専攻]
- 専門職学位課程 [教育実践高度化専攻] [学校臨床心理専攻] ※2021年度改組予定

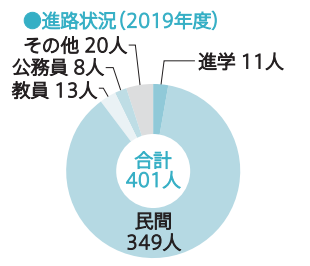
教育実践高度化専攻(教職大学院)学校運営コースでは現職派遣の教員が学び、修了後は各学校でリーダーとして活躍しています。



理工学研究科 水戸キャンパス 日立キャンパス 東海サテライトキャンパス

- 博士前期課程 [量子線科学専攻] [理学専攻] [機械システム工学専攻]
- [電気電子システム工学専攻] [情報工学専攻] [都市システム工学専攻]
- 博士後期課程 [量子線科学専攻] [複雑系システム科学専攻] [社会インフラシステム科学専攻]

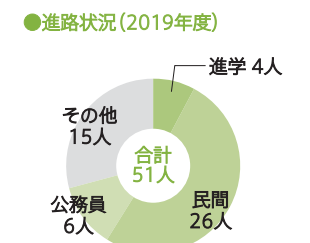
量子線科学専攻はJ-PARCなどの機関と連携し全国的にもユニークな量子線の科学・技術の総合的教育を行っています。



農学研究科 阿見キャンパス

- 修士課程 [農学専攻]

英語開講の科目だけで修了できるアジア展開農学コースには、アジア各国から留学生が集まっています。



連合農学研究科 阿見キャンパス

- [生物生産科学専攻] [応用生命科学専攻]
- [環境資源共生科学専攻] [農業環境工学専攻]
- [農林共生社会科学専攻]

茨城大学、宇都宮大学、東京農工大学の農学研究科修士課程が連合して、博士課程(3年)の教育・研究にあたる研究科です。

特別支援教育特別専攻科 水戸キャンパス

- [知的障害教育専攻] 特別支援学校教諭一種免許状取得コース
- 特別支援学校教諭専修免許状取得コース

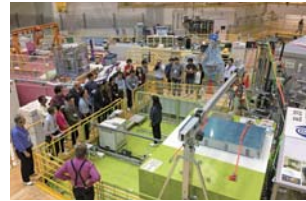
現職教員や教員資格保有者などを対象として、知的障害児の教育を中心とした特別支援教育を担当できる教員を養成しています。

茨城大学の研究

SDGsを旗印に分野融合研究、共同研究を推進

量子線科学と気候変動適応は、本学における世界的な強み・特色といえる研究分野です。特に気候変動適応の研究成果は、わが国におけるサステナビリティ学の創成に貢献し、2016年から始まった国連の持続的な開発目標「SDGs」の取り組みにもつながるものです。この研究力を活かしながら、改めて「SDGs」を全学的な旗印とし、さまざまな分野融合研究や共同研究を推進できる環境整備を進めています。また、量子線科学やSDGsの研究に続く、次世代が担う研究分野の開拓・支援にも努めます。

特徴的な研究領域



大規模施設と連携した量子線科学のパイオニア研究

茨城大学では、世界有数の大強度陽子加速器施設 J-PARC (茨城県東海村) に隣接する、東海サテライトキャンパスを開設。全国的にもユニークな大学院理工学研究科量子線科学専攻を核として、中性子・X線・ミュオンといった量子線を活かしたイノベーション創出と国際拠点構築をめざし、研究と人材育成を進めています。



地球・地域の持続的な環境共創に貢献する研究拠点

2020年4月に発足した地球・地域環境共創機構 (GLEC) では、本学における気候変動・環境科学研究の蓄積を基盤として、地球・地域の環境を対象にしたフィールド科学から予測・政策科学を含む総合的な研究を推進しています。同機構内には茨城県気候変動適応センターを有し、さらにベトナムの日越大学の気候変動・開発プログラムの幹事大学を務めるなど、グローバルとローカルをつなぐ研究拠点の構築を着実に進めながら、持続的な環境の共創に貢献します。

pick up

地域課題への組織的アプローチ 地域活性化、地域史の研究

原子力発電所がある東海村や中山間地域活性化等の地域課題をテーマに組織的な研究・発信を進めます。また、被災資料のレスキューなどの地域と連携した活動により、地域史研究を推進しています。



教科・領域を横断した教育学研究

総合学習に関する研究、神経・生理学的教育、環境教育等の強みを活かし、教育の現代的課題の解決に寄与する教科・領域横断的な研究に重点をおいています。



直径32mの電波望遠鏡を用いた 第一線の宇宙科学研究

高萩市・日立市に設置されている電波望遠鏡を用いた研究や、次世代ガンマ線天文台の国際計画にも継続的に関わり、国立天文台や他大学との協力のもと、宇宙科学の国際観測・研究ネットワークの重要な一翼を担います。



地域産業イノベーションの展開

地域産業イノベーションに貢献するため、地域の研究機関や企業との連携を維持し、金属材料解析・プロセス開発等工学分野に関する研究を展開します。



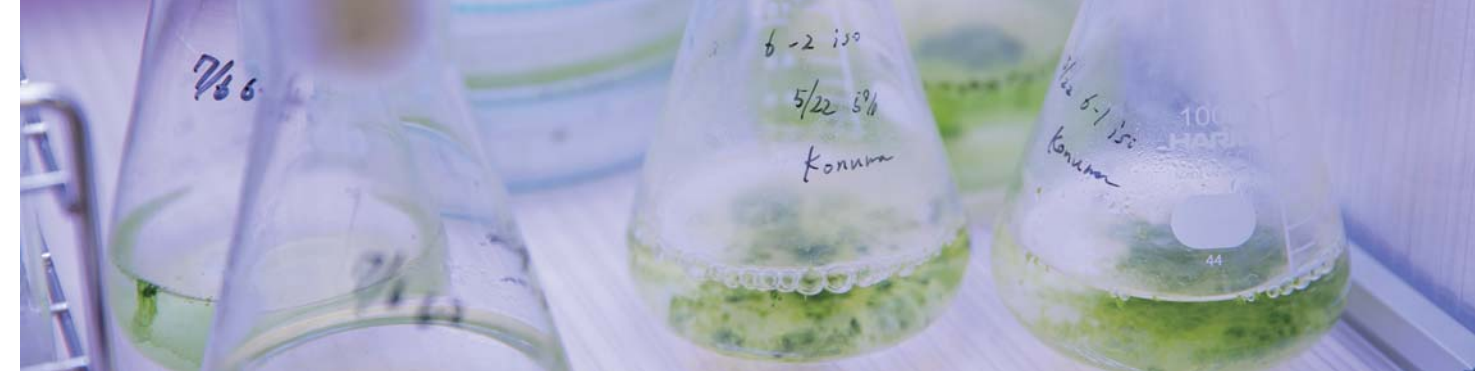
フードイノベーション 安全安心な食を国内外に

2018年にGAPを取得した国際フィールド農学センター、2019年に完成したフードイノベーション棟などを拠点に、農業生産から食品流通、健康科学にまで至る総合的な食生命科学の分野を確立します。



北茨城・五浦を拠点とした 茨城県北の美術・文化の発信

本学が所有する六角堂を含む岡倉天心遺蹟の保存と活用を一層促進し、おもに茨城県北部を拠点とした美術・文化の研究を通じた地域活性化に貢献します。



研究・産学官連携機構による戦略的な研究支援体制の構築

研究・産学官連携機構 (iRIC) では、研究支援の専門職 (URA、コーディネーター) を配置し、研究戦略および知的財産運用方針の策定や論文投稿、機密管理などに関する研修の企画を実施しています。さらに、他機関と協力した産学連携のためのネットワーク構築といった取り組みを進め、戦略的な研究支援体制を強化しています。

多様な研究支援体制

研究の加速や新たな展開をめざし、資金面やURAによる支援を行う Research Boosterのほか、英文論文投稿や講演会開催の支援など、さまざまな支援制度を設けています。また、学内外との研究者をつなぎ、新たな研究シーズの発掘や育成を促進させる、異分野融合イベント「茨大100人論文 (アオゾラ連携プロジェクト)」を運営しています。



競争的資金の獲得支援

科学研究費 (科研費) やその他の府省庁系資金について、申請に向けた情報収集や申請内容に関するディスカッション、関係各機関との意見調整、申請書作成支援などを行い、研究のための競争的資金の獲得をサポートしています。そうした取り組みが、本学の外部資金獲得や応募数の増加につながっています。



産学連携

学外機関と連携した研究シーズの発信や、提案・相談事業を通じて本学の研究リソースを活かし、企業のニーズを汲んだ共同研究を推進しています。また、茨城県北産業のものづくりや材料利用技術など高度な電動化地域資源と本学の精密計測、解析、AI/IoT技術を融合した「電動化プロジェクト」を推進し世界水準の科学技術拠点をめざします。



長年にわたって豊かな産業を培ってきた茨城からナンバーワン研究をめざす

茨城県は地理的な条件に恵まれ、農業・工業ともに豊かな実績を誇る地域です。たとえば本学工学部のキャンパスがある日立市は日立製作所創業の地でもあり、100年にわたって培ってきた技術を有する企業、人材が集積しています。本学では、そのような企業や研究者、技術者とともに、地域に根ざした世界に輝くナンバーワン研究の創出と、大学の知の財産の循環によるエコシステムの形成をめざします。

check!

iRIC

研究・産学官連携機構 (iRIC)

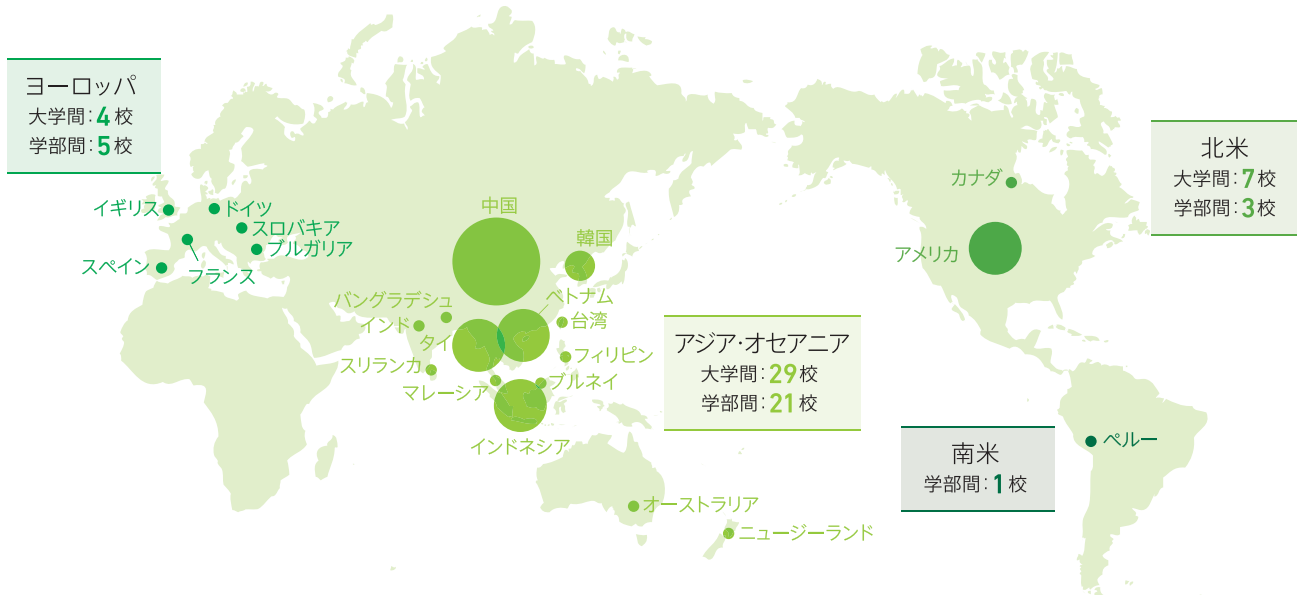
茨城大学の研究体制を司る組織として2018年に開設。産学官連携部門、学術研究部門、研究コンプライアンス部門の3つの部門からなり、研究支援や産学官連携のコーディネートに取り組んでいます。教員との共同研究については、機構のWEBサイトから気軽にお問い合わせください。

●TEL / 029-228-8835 ●WEB / <https://www.irc.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学のグローバル交流

社会のグローバル化に応える教育・研究の国際化

— 世界に広がるネットワーク型の国際拠点を構築



茨城大学は海外のさまざまな大学・機関と交流協定を締結しています

社会のグローバル化が急速に進む中、大学教育においても海外での学びの機会の拡充や高いコミュニケーション力の育成が不可欠になっています。また、茨城大学が国際的な強みとする研究・教育の取り組みも積極的に世界へ発信し、多様な研究者などとの交流につなげていくことが肝要です。

茨城大学では、海外23の国・地域に位置する70機関と交流協定を締結して、ネットワーク型の国際拠点を構築し、交換留学や共同研究を促進することで、グローバル水準の取り組みを推進していきます。

pickup



日越大学(VJU) 気候変動・開発プログラム

日越大学(VJU)は、日本とベトナムの両政府の合意の下、両国の複数の大学が参加・協力して設立した大学(大学院サステイナビリティ学研究科)です。茨城大学は、2018年9月に開講した修士課程の気候変動・開発プログラムの幹事校として、カリキュラム設計、シラバスの整備、海外研修の受け入れなどを担当しています。



AIMS(Asian国際学生交流事業)プログラム

AIMS(Asian International Mobility for Students)プログラムは、マレーシア、インドネシア、タイの各国政府共同による学生交流支援事業を起源としたアジア発の国際共同教育プログラムです。その後ベトナム、フィリピン、ブルネイ、日本(茨城大学を含む11大学)が加わりました。本学では農学部や理学部で学生の交流を行っています。



海外インターンシップ

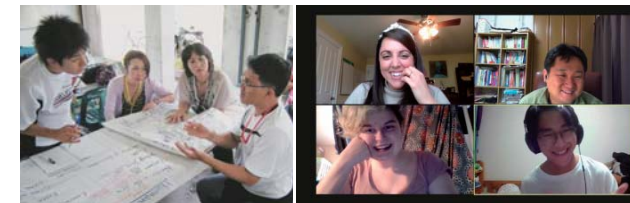
国内での企業インターンシップの支援に留まらず、海外での就業体験やインターンシップのプログラムも提供しています。また、専門分野を活かした海外インターンシップとして、現地の大学との連携による学部独自のプログラムも実施しています。



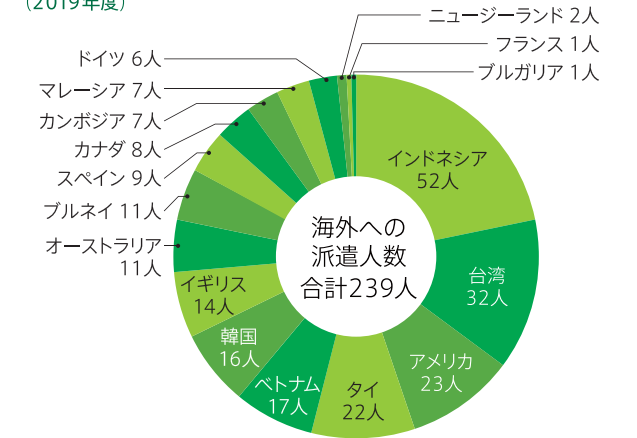
グローバルな学びをサポート

海外で・海外から学ぶ

海外の大学への留学やオンラインでの交流のコーディネートと豊富なプログラムを通じて、海外で/海外から学びたいという学生をサポートします。また、学部生や大学院生が語学研修や国際学会での発表に挑戦することを後押しするため、「茨城大学海外派遣学生旅費支援金」「茨城大学大学院生国際会議挑戦プロジェクト」などの経済面の支援も行っており、毎年多くの学生が海外へはばたいています。



●国別海外への派遣人数 (2019年度)



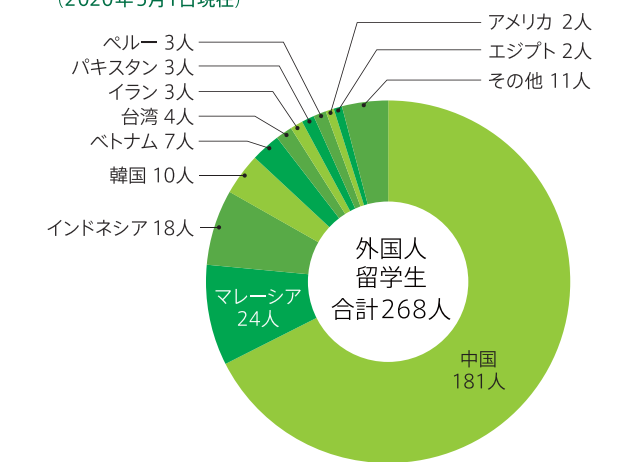
留学生の支援

県内の大学、企業、自治体、国際交流団体等と連携しながら、外国人留学生に対する日本語・日本事情教育、修学・生活上の指導助言を行っています。学生によるチューター活動も活発です。

また、各キャンパスに国際交流会館を設け、留学生本人や家族の居宅として提供するとともに、学生同士の交流を図っています。



●国別外国人留学生数 (2020年5月1日現在)



check!



グローバル教育センター

グローバル教育センターでは、茨城大学の留学生の教育・生活支援と、海外留学を希望する学生に対する情報提供・助言を行っています。ひらかれたセンターとして、交流イベントや相談事業も積極的に展開しています。留学や国際交流に興味がある学生はいつでもお越しください。

- TEL/029-228-8593 ●WEB/http://cge.lae.ibaraki.ac.jp/
- MAP/P.21 水戸キャンパス 共通教育棟

就職状況

多くの卒業生が専門分野を活かして
社会で活躍しています

学部別・業種別進路状況 (2020年5月1日現在)

区分	●学部卒業生								●大学院研究科修了者など※								合計						
	人文学部		教育学部		理学部		工学部		農学部		人文科学研究科		教育学研究科		理工学研究科			農学研究科					
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	計	
進学	8	13	26	20	84	33	267	21	22	17	1	0	0	0	7	3	0	1	2	2	417	110	527
公務員	25	30	9	16	7	3	11	3	5	10	1	1	0	3	5	3	0	0	2	4	65	73	138
教員	4	1	44	120	2	1	1	0	0	1	2	0	27	13	8	1	3	1	0	0	91	138	229
農業・林業	1	0	0	0	1	0	1	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	7	4	11
漁業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鉱業・採石業・砂利採取業	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2
建設業	4	7	2	2	2	0	8	1	3	0	0	0	0	0	13	0	1	0	0	0	33	10	43
製造業	9	11	1	5	11	6	35	13	6	10	0	1	0	0	181	16	5	1	6	5	254	68	322
電気・ガス・熱供給・水道業	0	1	0	0	0	1	6	1	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	11	4	15
情報通信業	15	52	8	24	11	9	56	12	2	6	0	0	0	0	58	8	2	0	0	1	152	112	264
運輸業・郵便業	6	6	0	3	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	17	10	27
卸売業・小売業	16	31	7	14	4	1	6	1	1	6	2	0	0	0	1	0	0	0	1	2	38	55	93
金融業・保険業	16	25	4	7	2	3	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	24	36	60
不動産業・物品賃貸業	6	9	0	3	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	14	23
サービス業	16	38	13	24	14	7	11	4	5	11	0	1	1	0	30	7	9	1	7	2	106	95	201
医療・福祉	7	8	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	11	13	24
その他の産業	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	3
その他	20	15	7	11	6	0	14	1	3	1	6	3	2	3	14	1	4	1	8	7	84	43	127
合計(男女別)	154	247	123	249	146	65	422	60	50	69	12	6	32	22	331	40	25	5	28	23	1323	786	
合計(学部別)	401	372	211	482	119	18	54	371	30	51											2109		

注: ※印「大学院研究科修了者など」には、博士後期課程単位取得満期退学者を含む。

就職者数上位の企業等 (2020年3月卒業生・修了者)

※()は就職者数

茨城県小学校教員(70) / 茨城県中学校教員(46) / 茨城県高等学校教員(26) / 茨城県庁(20) / JAグループ(17) / 株式会社常陽銀行(14) / 茨城県小中一貫校(義務教育学校)教員(13) / 茨城県特別支援学校教員(11) / 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構(11) / 株式会社カスミ(11) / 東日本旅客鉄道株式会社(10) / 日立オートモティブシステムズ株式会社(10) / 千葉県庁(7) / 株式会社日立製作所(7) / 株式会社日立パワーソリューションズ(7) / 株式会社茨城計算センター(7) / 日立市役所(6) / 千葉県高等学校教員(6) / 株式会社日立産業制御ソリューションズ(6) / 三菱電機株式会社(5) / 京セラ株式会社(5) / パナソニック株式会社(5) / ヤマハ発動機株式会社(5) / 茨城県警察(4) / 千葉県小学校教員(4) / 茨城県幼稚園教員(4) / 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(4) / 東京電力ホールディングス株式会社(4) / 本田技研工業株式会社(4) / JFEスチール株式会社(4) / スズキ株式会社(4) / 株式会社日立ハイテク(4) / キヤノンセミコンダクターエキップメント株式会社(4) / 水戸信用金庫(4) / 株式会社ユーコム(4) / 一誠商事株式会社(4) / 株式会社テクノプロ(4) / 株式会社メイテック(4)

check!



キャリアセンター

学生の将来を見据えて、インターンシップや就職支援など、幅広いキャリア支援を行っています。就職相談や求人情報、インターンシップの受付などの窓口です。

(日立キャンパス、阿見キャンパスは学務グループがキャリア相談の窓口となります)

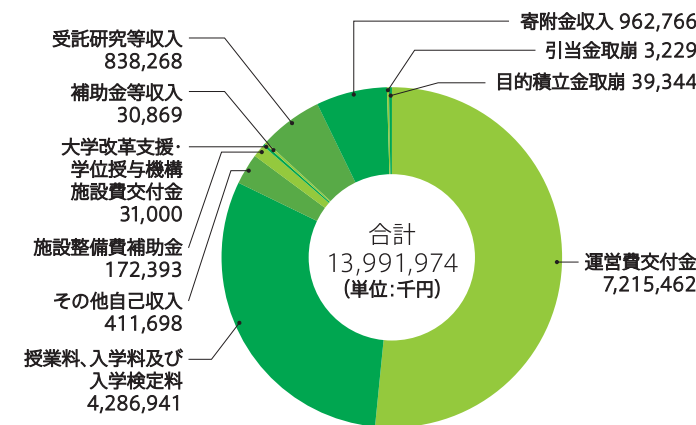
- TEL/029-228-8797 ●WEB/http://career.admb.ibaraki.ac.jp/
- MAP/P.21 水戸キャンパス 共通教育棟

大学運営

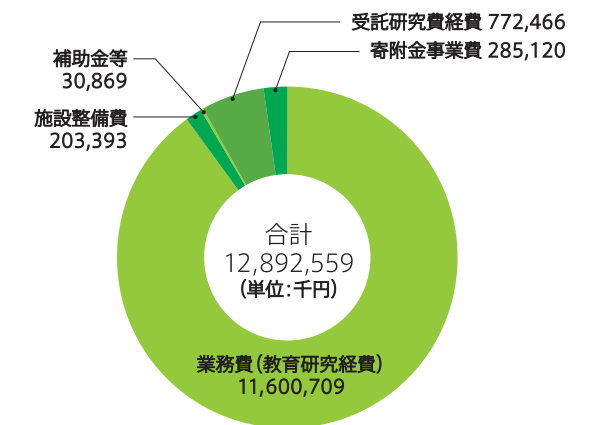
財務改善や教職員が輝く職場づくりを通じて、
持続可能な大学運営をめざします

財務状況 — 外部資金獲得の取り組みを強化し、自律的な財政運営を図る

●収入(2019年度)

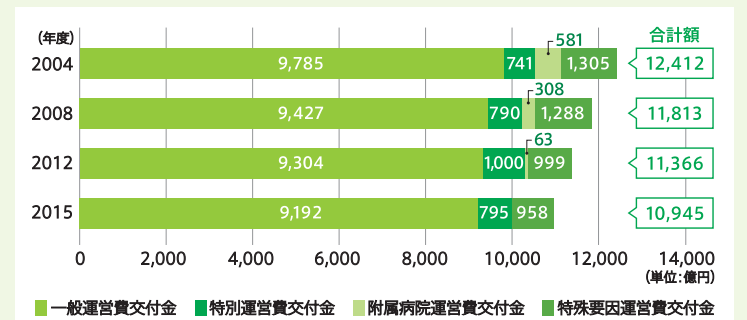


●支出(2019年度)



注: 千円未満切り捨てのため、合計が一致しない場合があります。

国から国立大学へ措置される運営費交付金等の予算について、教育・研究活動の基盤となる基幹経費の額は2004年の国立大学法人化以降、大きく減少しています(右図は全国の国立大学法人運営費交付金等の予算の推移)。本学においても、業務効率を高めるとともに、科研費等の研究助成の獲得や共同研究の推進、寄附の拡充など外部資金獲得の取り組みを強化し、自律的な財政運営を図っています。



ダイバーシティの実現と誰もが働きやすい環境づくり

茨城大学では女性教職員の増加やワーク・ライフ・バランスの充実などの取り組みを進め、ダイバーシティを活かした大学づくりをめざしています。水戸・日立・阿見の3キャンパスすべてに仕事と育児・介護の両立、キャリア形成などに関する相談窓口を設置するとともに、女性研究者メンターやライフイベント研究支援員、研究復帰支援、女性エンパワーメント支援などの多様な制度を設けて誰もが働きやすい環境を整備しています。こうした取り組みの結果、科学研究費助成事業での女性教員の新規採択率が2015年度(21.2%)から2018年度(41.3%)にかけて約2倍に増加しました。2019年度には茨城県女性リーダー登用先進企業表彰で優良賞を受賞しました。



check!



ダイバーシティ推進室

2016年4月に男女共同参画推進室を改称して開設されたダイバーシティ推進室では、お互いの個性が尊重されて、学生・教職員それぞれの能力が十分に活かされる、ダイバーシティ環境が整った大学づくりを進めています。

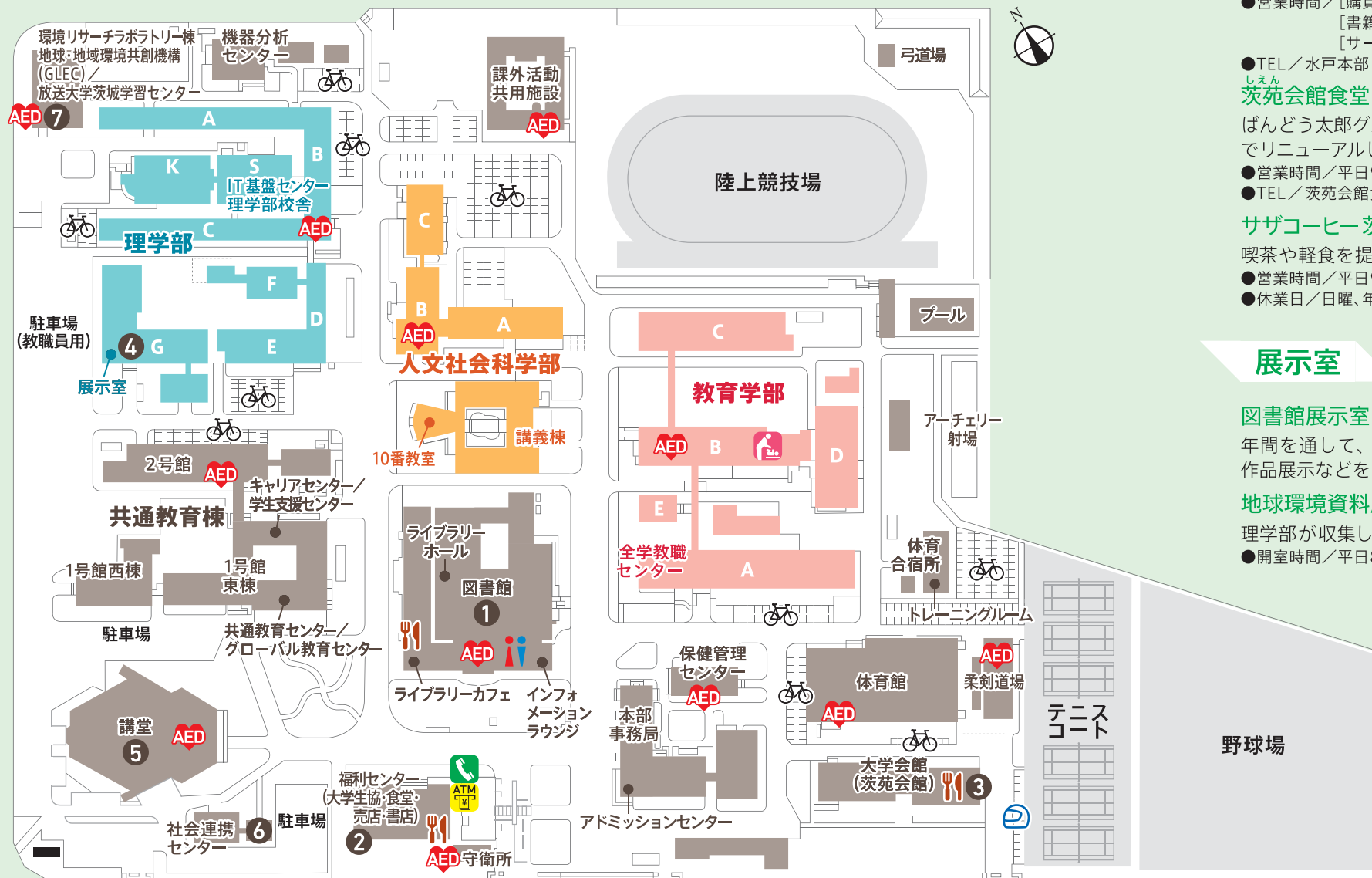
- TEL/029-228-8239 ●WEB/https://www.ibaraki.ac.jp/diversity/

キャンパスマップ 水戸キャンパス

●住所 / 茨城県水戸市文京 2-1-1
●TEL / 029-228-8111 (代)

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開館日・時間が変更になっている場合があります。

☎ 公衆電話 AED 駐輪場 バイク駐輪場 カフェ・食堂 銀行ATM ベビーシート



▲ 来客用駐車場入口

▲ 正門

図書館(本館) ①

茨城大学図書館はどなたも無料でご利用いただけます。図書の貸出を希望する方は、2階カウンターで利用者カードの発行手続きを行ってください。地域の方々と学生がともに学ぶ無料の講座「土曜アカデミー」も開講しています。

●WEB / <http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>
●TEL / 029-228-8076 (本館サービスグループ)

●開館時間

開講期間中	平日	8:30 ~ 21:45
	土・日	11:00 ~ 19:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30 ~ 17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29 ~ 1/3)		休館



カフェ・食堂・売店

大学生協食堂(福利センター1階・2階) ②

幅広いメニューで栄養バランスのとれた食事を提供しています。
●営業時間 / [1階] 平日10:00~19:20、土曜11:00~13:30、日曜休業
[2階] 平日11:00~13:30、土日休業

大学生協購買・書籍等(福利センター1階・2階) ②

書籍・食品・旅行・パソコンなどを取り扱っています。
●営業時間 / [購買] 平日8:30~18:15、土曜10:00~14:00、日曜休業
[書籍] 平日10:00~17:00、土日休業
[サービス] 平日10:00~18:00、土日休業
●TEL / 水戸本部 029-225-3384

茨苑会館食堂(大学会館1階) ③

ぱんどう太郎グループが運営。2016年には学生との共同企画でリニューアルし、学生考案のメニューも提供しています。
●営業時間 / 平日9:00~16:00、土日休業
●TEL / 茨苑会館食堂 029-232-3456

サザコーヒー茨城大学ライブラリーカフェ店(図書館1階) ①

喫茶や軽食を提供しています。テイクアウトも可。
●営業時間 / 平日9:00~18:00、土曜10:00~17:00
●休業日 / 日曜、年末年始、創立記念日(5/31)、お盆休み

展示室

図書館展示室(図書館1階) ①

年間を通して、本学所蔵資料の企画展示や、教員・学生の研究成果発表、作品展示などを行っています。開館時間は展示により異なります。入場無料。

地球環境資料展示室(理学部G棟1階) ④

理学部が収集した化石や鉱石などの資料を展示しています。
●開室時間 / 平日8:40~18:00、入場無料

ホール等

ライブラリーホール(図書館3階) ①



講堂 ⑤



社会連携センター ⑥

地域・社会との連携の窓口です。



地球・地域環境共創機構(GLEC)/放送大学茨城学習センター ⑦



●電車でお越しの方
JR水戸駅北口のバスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」に乗り、「茨大前」で下車(約25分)。

●車でお越しの方
常磐自動車道水戸ICより国道50号線を水戸駅方面に進み、新原三差路交差点を県道171号線へ。直進し、袴塚1丁目交差点を左折後、袴塚3丁目交差点を右折。一本目の道を左折すると右手に正門が見えます。
※お車の方は守衛所で入構許可証を受け取り、駐車場の案内を受けてください。



来客用駐車場



キャンパスマップ 日立キャンパス

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開館日・時間が変更になっている場合があります。

●住所／茨城県日立市中成沢町4-12-1
●TEL／0294-38-5004(代)

- 機械システム工学科：W1、W2、W4、W5、E2、E5
- 電気電子システム工学科：E3、E5、E6
- 物質科学工学科：N1、N2、N6、W3
- 情報工学科：S1
- 都市システム工学科：S2、S3

- AED AED
- 駐輪場
- バイク駐輪場
- カフェ・食堂
- ベビーシート

研究・産学官連携機構(N5棟)①

企業との共同研究や受託研究の推進拠点です。技術相談や研究内容に関するご質問など、お気軽にお問い合わせください。

研究・産学官連携機構 日立オフィス
●TEL／0294-38-5005
●FAX／0294-38-5240
●E-mail／ccrd-iu@ml.ibaraki.ac.jp



小平記念ホール(N4棟)②

日立製作所より資金提供を受けて1953(昭和28)年に建立。ホールの名前は日立製作所創業者の小平浪平氏に由来しています。現在は学内・学外を問わず講演会や式典などの会場として活用されています。



大学生協(E7棟)③

●営業時間／
[購買書籍]平日9:30～19:20、土日休業
[食堂]平日10:00～19:20、土日休業
●TEL／購買書籍 0294-37-4231
食堂 0294-37-4092



ものづくり教育研究支援ラボ(S5棟)④

学生や教員の各種製作などの相談を受け付けているほか、地域の子どもたち向けのワークショップなども開催しています。



図書館(工学部分館)⑤

図書館はどなたも無料でご利用いただけます。図書の貸出を希望する方は、1階カウンターで利用者カードの発行手続きを行ってください。

●WEB／<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>
●TEL／0294-38-5012
(工学部分館サービスグループ)

●開館時間

開講期間中	平日	8:30～21:45
	土・日	11:00～19:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30～17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29～1/3)		休館



多賀工業会館⑥

茨城大学工学部、茨城大学大学院理工学研究科(工学系)ならびに前身組織である多賀高等工業学校等の同窓会「多賀工業会」の事務局です。談話スペースも用意しています。



●電車でお越しの方
JR日立駅(中央口)から日立電鉄バス、中央線経由「平和台公園行」又は「多賀駅行」に乗り、「茨大前」で下車。JR常陸多賀駅から日立電鉄バス、中央線経由「日立駅行3」又は「日立駅行4」に乗り、「茨大前」下車。いずれもバス乗車時間は約10分。

●車でお越しの方
常磐自動車道でお越しの場合は、日立中央ICのご利用が便利です。国道6号線を水戸方面に進むと左折の案内表示板があります。正門の守衛所で入構カードを受け取り、駐車場をご利用ください。



キャンパスマップ 阿見キャンパス

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開館日・時間が変更になっている場合があります。

●住所／茨城県稲敷郡阿見町中央 3-21-1
●TEL／029-887-1261(代)

附属国際フィールド農学センター①

農場を活用した総合的なフィールド農学の教育・研究拠点。2018年12月には国際認証GAPを取得。研究管理棟では季節の野菜や果物、切り花の販売も。

●販売日／月・水・金曜日(祝日を除く)
10:30～11:30、13:30～15:30
●TEL／029-888-8702



附属国際フィールド農学センター①

●開館時間

開講期間中	平日	8:30～21:45
	土・日	11:00～19:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30～17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29～1/3)		休館

図書館(農学部分館)④

図書館はどなたも無料でご利用いただけます。図書の貸出を希望する方は、1階カウンターで利用者カードの発行手続きを行ってください。

●WEB／<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>
●TEL／029-888-8531
(農学部分館サービスグループ)

国際交流会館⑦

農学部は留学生の割合が最も多い学部です。外国人留学生と外国人研究者用の宿泊室と談話室などを完備しています。



こぶし会館②

1階に大学生協のショップと食堂を備え、近隣の皆様にもご利用いただいています。2階の研修室では市民向けのイベントなども開催。

●営業時間／
[購買書籍]平日10:00～17:00、
土日休業
[食堂]平日11:30～13:30、土日休業
●TEL／029-887-4312(大学生協)



遺伝子実験施設⑤

組換えDNA実験などの教育・研究のほか、無料の各種実験講座なども開催しています。



同窓会館(霞光荘)⑥

調理スペースがあり、懇親や各種会議にも利用されています。本学卒業生も利用可能です。
●TEL／029-888-8510
(農学部会計・管理グループ)



フードイノベーション棟③

ハサップ 食の安全に関する国際標準 HACCP の教育や食の6次産業化に係る教育研究の強化を目的に、2019年に新設。教員の研究室、講義室、実験室、インキュベーションラボ、ラーニングcommonsなどを備えています。



●電車でお越しの方
土浦駅(西口)バスターミナル1番乗り場から関東鉄道バス「阿見中央公民館行」に乗り、「茨大前」下車(約20分)。

●車でお越しの方
常磐自動車道でお越しの場合は、桜土浦ICで下り、阿見・土浦方面へお進みください(約15分)。事務棟前に来客用駐車場を用意しています。

東海サテライトキャンパス

世界的な研究施設 J-PARC (大強度陽子加速器施設) に隣接する茨城大学フロンティア応用原子科学研究センターを核とした、新たな教育・研究拠点として2017年に開設。大学院理工学研究科量子線科学専攻の教育・研究活動を展開しています。年1回実施している一般公開には、東海村在住の小中学生などが家族とともに訪れ、最新の研究に触れています。

- 住所/茨城県那珂郡東海村白方162番地1 いばらき量子ビーム研究センター内
- TEL/029-287-7871
- WEB/http://www.fas.ibaraki.ac.jp/ (フロンティア応用原子科学研究センター)



水戸駅南サテライト

水戸駅南口から徒歩5分。川の景色を臨みながら、学修や仕事、イベントなどに柔軟に活用できる場として2020年に開設しました。本学工学部都市システム工学科の研究室の教員・学生がデザインを監修。茨城県産木材をふんだんに使った心地よい空間です。

- 住所/茨城県水戸市桜川2丁目2-35 茨城県産業会館2階
- TEL/029-297-3151



教育学部附属学校園

茨城大学教育学部の附属学校園では、教育学部や教職大学院の教員養成に協力するとともに、教育に関する理論・実践の研究や働き方改革の取り組みの成果を広く発信し、地域の教育力向上に貢献しています。



附属幼稚園
茨城県水戸市三の丸2-6-8
TEL/029-224-3708



附属小学校
茨城県水戸市三の丸2-6-8
TEL/029-221-2043



附属中学校
茨城県水戸市文京1-3-32
TEL/029-221-3379



附属特別支援学校
茨城県ひたちなか市津田1955
TEL/029-274-6711

※2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や内容の変更がございます。

地域の方にご参加いただけるイベント



オープンキャンパス
キャンパスを1日開放し、研究室訪問や模擬授業などにより学生生活を体験できるイベント。水戸・日立・阿見の各キャンパスで毎年7~8月の時期に実施しています。



学園祭
水戸の茨苑祭、日立のこうがく祭、阿見の畝耕祭という各キャンパスの学園祭には、地域の方々も毎年多くご来場いただいています。



土曜アカデミー
茨城大学図書館が開催している、地域住民と学生と一緒に学ぶ無料イベントです。

茨城県内の茨城大学関連施設のご案内



茨城大学五浦美術文化研究所 —岡倉天心の思想をいまに—



岡倉天心は北茨城五浦の地を気に入り、1906年に日本美術院を移し、横山大観、菱田春草、下村観山、木村武山らとともにこの地で過ごしました。研究所は天心遺跡の管理・公開を行うとともに、その功績をたえ日本の近代美術や内外の文化・歴史研究に取り組んでいます。六角堂は2011年3月11日の東日本大震災がもたらした大津波で基部以外すべて流出してしまいましたが、多くの方々の支援により復興。敷地内の天心記念館では、平柳田中作の「五浦釣人」など貴重な作品を展示しています。

- アクセス/JR常磐線・大津港駅から徒歩約10分
- 入場料/400円(中学生まで無料・団体割引等あり)
- 休館日/原則月曜日(詳細はWEBサイトをご参照ください)
- 住所/茨城県北茨城市大津町五浦727-2
- TEL/0293-46-0766
- WEB/http://rokkakudo.izura.ibaraki.ac.jp/

茨城大学理学部附属 宇宙科学教育研究センター —宇宙の成り立ちを探る巨大アンテナ—



日立市と高萩市にまたがった小高い公園内にある、国立天文台の口径32mの宇宙電波望遠鏡2基を使って、宇宙からやってくる電波をとらえています。

- アクセス/JR常磐線・高萩駅からバス利用「明秀学園高萩キャンパス前」から徒歩10分
- 入場料(宇宙電波館)/無料(平日10時~12時、13時~15時)
- 休館日/土・日曜日、年末年始(12/29~1/3)
- 住所/茨城県高萩市石滝627-1
- TEL/0293-24-9516
- WEB/http://www.asec.ibaraki.ac.jp/

地球・地域環境共創機構 水圏環境フィールドステーション —全国唯一の臨湖教育施設—



北浦を臨む場所に建つ当施設は、全国唯一の臨湖共同教育施設としてさまざまな地域の学生などの利用を受け入れ、生態系の観察や水質調査を体験できるプログラムを提供しています。

- アクセス/成田線・延方駅から徒歩約10分、大洗鹿島線・鹿島神宮駅から徒歩約17分
- 住所/茨城県潮来市大生1375
- TEL/0299-95-9650
- WEB/http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/

キャンパススケジュール

茨城大学の1年間

※2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により以下の内容から大幅に変更となっています。



11-キャンパススケジュール

茨城大学基金 Next Step

ご寄附募集のご案内

茨城大学では、同窓会・地域の皆様、関係企業・団体の方々などから広くご支援をいただく仕組みとして、「茨城大学基金 Next Step」を2015年に創設しました。本冊子でご紹介したように、本学では地域と世界で活躍する人材を育てるための大学改革に取り組んでおり、グローバルに学ぶ交換留学や短期研修も拡充し、学生の成長を支援する環境づくりを進めるとともに、地域に根ざし、持続可能な地域づくりに貢献しています。このような取り組みを一層進める上では、財政基盤の充実が不可欠です。社会の期待に応える大学として成長したいという本学の志をご理解いただき、さらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

寄附の種類

個人寄附	法人・団体寄附	古本等の売却による寄附
個人の方を対象に1,000円から任意の金額でご寄附いただけます。	法人や団体、企業を対象に10,000円から任意の金額でご寄附いただけます。	ご不要になった古本やCD・DVD、ゲームソフトなどをVALUE BOOKSで買い取り、その買い取り額がご寄附となります。

寄附の使途・支援事業

寄附者の皆様にご支援いただく事業を選択いただき、ご寄附をお願いしております。

支援者	茨城大学基金・取り組み事例
<ul style="list-style-type: none"> ●個人の方 ●法人・団体の方 ●古本等の売却益 ●遺贈・遺言信託 	一般基金 教育・研究活動、社会連携活動など大学の事業計画に基づく支援のほか、寄附者の方のご希望の使途に沿った受け入れも行ってまいります。
	特定基金 修学事業支援基金 ・困窮学生への奨学金、授業料の減免措置 ・TA(Teaching Assistant)、RA(Research Assistant)にかかる費用負担等の支援
	附属中学校高度化支援基金 生徒の学習環境の整備、さらなる教育の充実を図るための機器・設備整備への支援
	国際交流・留学生支援基金 学生への国際交流、留学への支援や外国人留学生の学修環境整備、日本での生活全般への支援
	図書資料および学習環境事業基金 学生用の図書や雑誌の購入、図書館の環境整備への支援

寄附の申し込み

WEBフォームから	申込書から
茨城大学基金のWEBサイトにアクセスし、お手続きをお願いいたします。クレジットカード決済、銀行振込決済(窓口・インターネットバンキング・ATM)、コンビニ決済(払込票)の払込方法から選び、ご寄附いただけます。 ※郵便局での払い込みはできません。	寄附申込書に必要事項をご記入いただき、郵送またはFAXにて、茨城大学基金・同窓会課までお送りください。寄附申込書は基金のWEBサイトでダウンロードいただくか、茨城大学基金・同窓会課までお問い合わせください。申込書確認後、コンビニ決済用の振込票をお送りいたします。30万円以上のご寄附や銀行振込をご希望の方には、別途ご案内をいたします。

<https://www.ibaraki.ac.jp/fund/>

※ご入金確認後、受領証明書を送付いたします。処理の都合上、1~2ヶ月程度かかる場合がございますが、ご了承ください。受領証明書は税制上の優遇措置を受けるために必要な書類ですので、大切に保管してください。

茨城大学総務部基金・同窓会課

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1
 ●TEL/029-228-8781 ●FAX/029-228-8249 ●E-mail/kikin@ml.ibaraki.ac.jp ●WEB/https://www.ibaraki.ac.jp/fund/